

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUBMB 分科会 更新日 2010/3/16  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際生化学・分子生物学連合  
(欧文) International Union of Biochemistry and Molecular Biology  
(略称) IUBMB

日本学術会議加入年(西暦) 1955 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	G.A.Petsko	vacant		M.P.Walsh
(国)	U.S.A.			Canada

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

各国から推薦のあった候補のなかから、推薦委員会が最終候補を1名に絞りGeneral Assemblyで投票する。総会で、2名の推薦があれば立候補も可能である。

加入国・地域の数 66 ケ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

USA, UK, Germany, France, Denmark, Canada, Japan, Israel, Korea, Spain, Singaporeほか

国際学術団体のホームページURL

http://iubmb.org

国際学術団体の年間運営経費

約570,000US\$

日本の分担予定額[事務局で記入]

1,296千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2009	Congress	Shanghai	3000	102	無
2008	Symposium	Athens	3000	120	無
2008	Symposium	Hyderabad	2755	unknown	無
2006	Congress	Kyoto	9477	8282	有
2003	Congress	Montreal	3800	80	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2009	General Assembly	Shanghai	39	本庶、谷口、 鍋島	2
2006	General Assembly	Kyoto	40	新井、本庶、 谷口	3
2003	General Assembly	Montreal	38	本庶、新井、 谷口	3
2000	General Assembly	Birmingham	38	二井、谷口、 村松	3

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

IUBMB Life (monthly), Biochemistry and Molecular Biology Education (bimonthly),  
Biotech. & Applied Biochemistry (monthly), BioFactors (monthly), Trends in  
Biochemical Sciences (TIBS) (monthly)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>Metabolic Map の作成、開発途上国の若手研究者への学会参加援助、生化学分子生物学の教育方法のまとめ、小規模の国際会議の開催援助</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>産学連携による研究の発展、IUPACへのnomenclatureの提言</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>比較的小規模の国際学会への財政援助、地域単位の国際会議の講演、アフリカ、中南米などの生化学分子生物学教育のレベル向上のための活動</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>開発途上国の生化学分子生物学の教育レベルの向上、若手の旅費援助、兆地域での学会開催の援助、アジアオセアニア、パンアメリカ、アフリカ、ユーロなどの地域の生化学分子生物学学会議の援助や後援</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>国際会議への出席が経済上の理由で困難な発展途上国の若手研究者に対しTravel Awardを贈呈している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>科学者の倫理規範、若手の人材育成、発展途上国の生化学分子生物学のレベルの向上、産学連携、生化学分子生物学の新しい教育方法の開発</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
推薦委員会委員長	谷口 直之	2006	2009
第20回IUBMB Congress 会頭	本庶 佑	2006	2006
理事	安楽 泰宏	2001	2006
IUBMB会長	八木國夫	2000	2003
産学連携役員	新井健一	2006	2008

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUBMB分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本生化学会、日本分子生物学会議、日本臨床化学会など

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
(社)日本生化学会	12000	<a href="http://www.jbsoc.or.jp/">http://www.jbsoc.or.jp/</a>
日本分子生物学会	15000	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/</a>
日本細胞生物学会	1200	<a href="http://www.nacos.com/jscb/jscb/">http://www.nacos.com/jscb/jscb/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名  
所属分野別委員会

IUBMB分科会  
基礎医学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
谷口直之		鍋島陽一	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
4		

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

IUBMB本会への参加、運営上の協力、雑誌IUBMB Life, IUBMB educationなどの雑誌の編集と出版協力 分子医科学分科会や基礎医学委員会への積極的参加とまとめに貢献

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2010/1/27	本庶佑会員を委員に再度推薦 役員選出
2008/11/25	IUBMB president electおよびsecretary general の推薦について (メール会議)
2008/11/18	IUBMB 日本代表委員 の推薦について(メール会議)
2008/9/24	IUBMB General Assemblyの結果報告(メール会議)
2008/8/6	IUBM 日本代表委員選出について(メール会議)
2008/7/27	IUBMB General Assemblyの日本の対応について(メール会議)

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本生化学会や日本分子生物学会を通じ、常にIUBMBからの情報はメールにより会員に通知している。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

3名の日本代表の選出と総会への参加、理事などの役員推薦委員会への助言と協力、アジアオセアニア生化学分子生化学連合への運営協力

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

本年度開催される、上海での会議に向けて、2006年の京都での組織の経験を伝え協力をしている。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会は開催していないが、学術会議の基礎医学委員会や分子医科学分科会に参加し、提言などに向けての積極的な関与をしている。